

社会 - 10 (第5学年) 学んだことを生かして構想し提案する事例

【学習活動の概要】

1	単元名 自動車をつくる工業 ～未来を考えた自動車の開発～
2	単元の目標 我が国の自動車工業について、地図や地球儀、資料などを活用して調べたり未来の自動車を考えたりする活動を通して、それらは国民生活を支える重要な役割を果たしていることを考えるようにする。
3	評価規準 【社会的事象への関心・意欲・態度】 自動車工業の様子に関心を持ち、自動車工業に従事している人々の工夫や努力について意欲的に調べ、自動車工業と国民生活の関連を考えようとしている。 【社会的な思考・判断・表現】 国民生活の向上と産業の発展とを関連付けて、工業が国民生活を支える重要な役割を果たしていることやこれからの社会に求められる自動車を考え適切に表現している。 【観察・資料活用の技能】 新しい自動車の開発、生産、販売や原料の輸入などについて、調査活動や各種資料を活用して必要な情報を集めて読み取ったりまとめたりしている。 【社会的事象についての知識・理解】 自動車生産に従事している人々の工夫や努力、貿易や運輸の働きなどと、それらが国民生活を支える重要な役割を果たしていることを理解している。

4 教材
本単元では、日本を代表する自動車工業を取り上げ、そこに従事する人々の工夫や努力を学習することにより、世界的にトップ水準の産業である理由と今後の問題点について学習する。とりわけ、自動車の排出ガスと環境問題は切り離せない問題であり、エコカー減税など国を挙げて取り組んでいることを学ぶことで、自分も自動車会社や国に未来の自動車を提案したいという姿を期待し、この単元を構成した。

5 主な学習活動
(1) 単元の指導計画 (全 12 時間)

	学 習 活 動	言語活動に関する指導上の留意点
第1次	○自動車工業を数字で見て、世界でもトップクラスの産業であることを学習し、調べる意欲を高める。(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車工業に関する統計数値の大きさに着目させ、日常生活と自動車のつながりを例えを入れて発言するように促す。 ・見たこと、聞いたこと、考えたことを分けてノートにまとめさせる。 ・作業工程、人々の努力、工夫を分けて発表させるようにする。 ・開発に携わった人々の大変な苦労を想像して表現するように促す。 ・プレゼンテーションの「内容や方法を支援する。 ・対立する論点を洗い出して話し合わせるようにする。
第2次	○自分の家の自動車調べ、自動車の中を見る活動から、自動車の作り方に興味をもつ。(2)	
第3次	○自動車の作り方を調べまとめる。(3) ○新聞記事からジャストインタイムについて学習する。(1)	
第4次	○ハイブリッド車の開発について調べ、まとめる。(2) ○自動車と環境問題について調べ、まとめる。(1) ○自分が求める未来の車について考え、表現し、自動車会社に提案する。(2) 本時 2/2	

(2) 本時の学習 (12 / 12)

- ① 目標 自分が考えた未来の自動車を提案し、よりよい未来の車について話し合う。
- ② 展開
 - 自分の考えた未来の車をパワーポイントを用いてプレゼンテーションし合う。
 - よいところを見つけて教え合う。

【解説】

【指導事例と学習指導要領との関連】

小学校学習指導要領・社会の第5学年の内容（3）では、「我が国の工業生産について、次のことを調査したり地図や地球儀、資料などを活用したりして調べ、それらは国民生活を支える重要な役割を果たしていることを考えるようにする」、「工業生産に従事している人々の工夫や努力、工業生産を支える貿易や運輸などの働き」と示されている。また、『小学校学習指導要領解説 社会編』において、学年の目標に関する記述として「調べたことや社会的事象の意味について考えたことを、根拠や解釈を示しながら図や文章などで表現し説明することができるようにする」ことが示されている。

本事例では、ハイブリッド車の開発について教科書を中心に学習し、その完成に至るまでの工夫や努力をノートにまとめた。また、現在開発中の車、すでに試作品が完成している車をインターネットで探し紹介することで、自分たちも未来の車を考えてみたいということになった。既習をもとに未来の車を創造的に表現し、よいところや相違点などに焦点を当てて話し合うことで思考が深まり、観点が広がると考えた。



【言語活動の充実の工夫】

—未来の車を考えて提案する—

未来の車を考えるに当たり、視点を出し合った。その結果、次の4つの視点について考えていくこととした。

「環境」「安全」「人にやさしい」「便利」

「環境」については、CO₂を排出しないだけでなく、CO₂を吸い込み、酸素を出す車。「安全」については、人や車の動きを予測して事故が起こる前に知らせてくれる車。お酒を飲んだら動かない車。「便利」ではリニアのような速さで走ったり、水陸両用だったり、どれも夢のような話だが、既習を生かし、現在の自動車会社や消費者の願いが込められた自動車を創造的に考えていた。話し合いでは「今は夢かもしれないが、50年前に現在の世の中がこんなになると予想できた人はほとんどいないくらい発展したのだから、今から50年後には、私たちの考えたような車が開発されているかもしれない。」「それ以上に車じゃなくてタケコプターのような装置が開発されているかもしれない」という意見も出るほど、意欲的に表現しようとしていた。

こうして一人一人が表現した自動車をパソコンに取り込み、「情報の時間」（総合的な学習の時間）に学習していたパワーポイントでプレゼンテーションし交流することにした。児童は、自分の未来車をセールスするつもりで、よいところをアピールしたりクイズを入れたりして、楽しく聞いてもらえるよう工夫していた。

発表を通して互いに考えの異なる点も明確になった。車の価格について、安い方がよいか、高くても「環境」「安全」「便利」を考えた車がよいかという点である。この点を焦点化して意見交換したところ、「安い方がよい」という考えでは、「地デジのテレビを買えない人もいる。誰でも買える値段の車があればよい」や「高いのなら今のエコカー減税のように国が安くしてあげるとよい」などの意見が出された。「高くても…」という考えでは、「地球のことを考えたら一人一人がもっと努力しないといけない」や「交通事故が起こらないなら高くてもいい」と発言するなど、既習内容を踏まえた考えがたくさん出て、個人だけでなく集団の考えが発展していった。

